



vol. 129

# はじめての 万葉集

日本に現存する  
最古の和歌集「万葉集」を  
わかりやすく紹介します

## 新春の雪

天平宝字三(七五九)年正月元日、因幡

の国庁で行われた饗宴にて、大伴家持が詠んだ歌です。「万葉集」の末尾に収められる歌としても著名です。「新しき年の始の」「初春の」と類似の語を繰り返して用いたのは、この年の元日が立春と重なるからだと考えられます。二重にめでたい日に、新年に降る雪が吉兆を示すことを詠んでいます。

中国南北朝時代(四三九〜五八九年)の詩集である『文選』に収められる謝惠連の「雪賦」に、積雪が一尺(約三十cm)を越えることは豊年となる証しと記されています。古代日本でも、『凌雲集』に収められる菅原清公の「早雪を賦すに和す」や『本朝文粹』巻一に収められる紀長谷雄の「春雪賦」などの漢詩に、一尺の雪は

### あらた 新しき 年の始の 初春の

### 今日降る雪の いや重け吉事

大伴家持 卷二十(四五一〜六番歌)

吉兆であると記されます。このように、雪が豊年の予兆との思想が中国から日本に伝わったことが分かります。

また、『明月記』安貞元(一二二七)年十一月二十九日条に「寒気、堪えがたきといえども、雪降らず。これ、また凶年に向かうか」とあります。雪が降らないことが凶兆であるということです。

雪が降ったり降らなかったりすることが吉凶を予兆するのは、観念的なものではありません。人々の目に映えるからということでもありません。現実的な意味合いを含みます。

冬に雪が降ることは、季節が順調に循環しており、気温が低くなっていることを示します。気温の低下によって、農作物に害を及ぼす虫の卵の孵化を防ぎます。すなわち、害虫が減少すれば、結果として農作物の被害が減り、豊作となる可能性が高まるのです。また、雪は



### 訳 新しい年のはじめの、新春の

今日を降りしきる雪のように、  
いっそう重なれ、吉き事よ。

農作物の成長に必要な水をもたらします。これらのことを古代人は経験則として把握していたのです。

(本文 万葉文化館 中本和)

## 万葉文化館 イベント情報

◆万葉集をよむ **無料**

1月22日(水) 14時〜15時30分

「夏の雑歌(4)」(巻8:1489〜1497番歌)  
井上さやか(当館企画・研究係長)

〔定員〕150人(先着・申込不要)  
※オンライン視聴(定員なし)は要申込

◆万葉古代学講座 **無料**

1月26日(日) 14時〜15時30分

「古事記」における吉兆と凶兆  
阪口由佳(当館主任研究員)

2月1日(土) 14時〜15時30分

「日本古代における国見の史的考察」  
中本和(当館主任研究員)

〔定員〕各回150人(先着・申込不要)  
※オンライン視聴(定員なし)は要申込

◆にぎわいフェスタ万葉 冬

開催中〜3月9日(日)

巨大めいろに挑戦! **無料 申込不要**

1月11日(土)〜19日(日) ※1月14日(火) 休館日  
10時30分〜12時  
13時30分〜15時  
段ボールでできた  
巨大めいろが登場  
します!



巨大めいろ イメージ写真

◆ジャンボかるた大会 **無料 申込不要**

2月2日(日) 13時30分〜  
(受付13時15分)

A3サイズの万葉歌留多を使ったかるた大会です。動きやすい服装でお越しください。  
〔会場〕企画展示室



奈良県立 万葉文化館  
☎0744-54-1850  
🌐www.manyo.jp